

令和6年度 福井県立若狭高等学校(定時制) 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
教育課程 学習指導	自主的に学習するための課題を提供し、学習習慣の確立および基礎学力の向上をはかる。	92.8%の生徒が学習課題に取り組めたと回答しており、82.2%の保護者の方から家庭でも学習課題に取り組めていたとの回答をいただいている。また、教員の取り組みに関しては、87.5%が適切に課題を提供できたと考えている。 いずれの項目も目標値を達成しており、ほとんどの生徒が自主的に学習に取り組む習慣を確立できているが、一部の生徒については、家庭における学習が不十分な点もあり、今後とも取り組みを継続していく必要がある。	ここ数年の調査においては、家庭での学習課題への取り組みとその期限までの提出はうまくできており、それが学習成績として結果にもよく表れている。これらの結果については満足いくものであるが、観点別評価をよりよい指導へ活かせるよう、適切な課題の設定が必要である。 また基礎学力の向上に関しては、クラス内での個人差が著しいため、家庭と連携した個別指導を継続していく必要がある。
	アクティブ・ラーニング型の授業および探究的な学習を通して、学習に対する興味・関心・意欲を高める。	主体的・対話的な学びや探究的な学習の実践については、グループ学習等で学習意欲が高まったと答えた生徒の割合は82.2%であり、教員の多くもそれを実践できたと考えている。 いずれも目標値を達成しており、今後とも生徒の状況や特性に応じた工夫をしながら取り組みを継続していく必要がある。	日々の授業の実施内容や生徒の学習への取り組み状況を踏まえて、より主体的・対話的で深い学びとなるよう検討を続ける必要がある。 また、総合的な探究の時間や特別活動においては、外部の機関とも連携しながら様々な取り組みを行う中で、生徒が自己肯定感や非認知能力を高められるようさらに工夫する必要がある。
生徒指導	生徒会行事に主体的に取り組ませることを通じて、学校生活の充実を目指す。	生徒会が主体となって学校行事の企画・運営をする体制づくり、環境づくりに努めた。 生徒会行事の取り組みについて、進んで取り組むことができたという生徒が92.8%、活動が充実していると感じている生徒は、96.4%おり、生徒主体の充実した内容を実施することができたと考えている。 体育会では、生徒たちが試行錯誤しながら競技の内容を考え、準備・運営を行ったことは自信になったと考える。今後も少人数でどのような活動ができるか臨機応変に対応しながら、一人ひとりが充実感ももてる学校行事となるよう、様々なアプローチや指導を行っていく必要がある。	引き続き、生徒会執行部の活動を通してリーダーシップを持った生徒を育てること、生徒が主体的に活動に参加できる雰囲気作り、環境づくりに努めたい。 本年度の取り組みを基に、生徒自身が興味・関心を強く持てる内容で企画運営する行事を増やしたい。また学校生活の充実や自律する力の向上を目指し、日常生活での時間や物品の管理などの生活習慣の改善も企画していく。 活動準備に余裕を持って取り組ませるとともに、一人ひとりの役割分担を明確にして責任感を養い、成功体験を味わうことで自己肯定感の向上につながる活動を目指す。
	講演会やボランティア活動を通して、自分自身の生き方や自他の尊重について考えさせる。	保護者に対しては、行事を通して自己反省や他者尊重の契機となったか問いを設定したが、79.3%が肯定的な評価を寄せている。 今年度は、昨年実施した社会福祉協議会や介護施設と連携した車いす補助講習会・車いす利用者の買い物補助ボランティアに加え、外部の施設と協力して、お弁当作り・保育支援・布おもちゃづくりなどの社会貢献活動にも取り組んだ。また、警察関係者を講師に招き、薬物の危険性についての講演会を開催した。	普段の生活はもちろんのこと、人権に関する講演や授業での取り組みの中で、自他ともに大切にし、尊重する態度を育てることを目標にしていきたい。 社会貢献活動については、生徒自身が活動内容を考える機会を設け、活動の意義について確認できるようにする。また、地域の各ボランティア関係者と継続して連絡を取り合い、生徒への効果的な助言を得られる機会を増やしたい。地域イベントの運営など、学校を離れて個人でボランティアに参加する生徒を増やしたい。
進路指導	進路に関する行事を通して職業意識の啓発に努め、自らの進路について考えさせる。	主体的に進路選択をする力を育成するために、全学年を対象に6月、1,2,4年生を対象に1月に進路ガイダンスを実施した。実際に働いている講師陣より実体験を語っていただいたり、分野別に進路講話を聞き、マナーとルールの違いについて考える機会を持たせることができた。また、12月には全学年を対象に就職支援セミナーを実施し、電話での対応の仕方や社会人としてのマナーについて学んだ。年度末の生徒アンケートでは、自分の進路について考えるようになったと答えた生徒は約80%と高評価だった。8割の保護者が子どもの変化を感じており、ガイダンスやセミナーの実施は有効であったと考える。	今後も実践的な内容で実施することによって、生徒が自分の進路について具体的なイメージを持ち、学業への取り組みや就職活動が充実するように支援していきたい。担任教諭をはじめとする各教科担当や、外部機関と連携し、生徒の実態や進路希望に合わせてガイダンスの内容を適宜検討しながら充実した行事として継続実施していきたい。
	将来に役立つ資格の取得を目標とし、少なくとも1つの資格に挑戦する。	全学年生徒が「日本語検定」受験に向けての学習に取り組んだ。合格率(認定+準認定)は、5級(1年)92%、4級(2年)100%、3級(3年)43%であった。問題のレベルが上がる3級の合格率が低かったため、生徒の学力に配慮した学習方法を考える必要がある。	資格取得に対する意欲の高い生徒が増えてきている。生徒の取り組み状況も良好であり、レベルの高い受験級の合格率を上げるために、互いに学び合う学習環境提供を継続していきたい。 また、漢字検定や英語検定なども紹介し、さらなる資格取得を促していきたい。